

IV 国際交流

国際交流委員会

中村 哲 佐々木秀美 岩本由美
土肥敏博 大塚 文

本年度の大学間交流に関しては、平成 29 年 5 月 2 日に国際交流センターおよび大学院看護学研究科の共催で昨年同様に来日したノースライン・ウエストファレン (NRW) カトリック大学の一行を招聘し教育交流を実施した。また、同年 8 月 1 日に国際会議参加に関わる機会を利用して中華民国台湾の花蓮にある慈済科技大学を表敬した。さらに、平成 30 年 3 月 12 日の海外調査の折に協定校であるフィリピン共和国のラス・ピニヤスにあるパーペチュアル・ヘルプ大学 (UPHS) メディカルセンターを表敬し学生・教員との交流を行った。その内容は下記に示した通りである。

国内での活動としては平成 29 年 9 月 13 日に東京都内で開催された私大協「国際交流推進協議会」に参加した。この協議会では、世界の大学間の国際交流の最近の傾向を概観し、1991 に設立されたアジア太平洋大学交流機構(UMAP)の活用について紹介がなされた。このコンソーシアムは現在国公立私大の 100 大学が加入し、環太平洋(カナダ・アメリカ合衆国含む)・アジアの 35 カ国と連携している。UMAP に加入するメリットは大学間で個別に MOU 等の契約を交わすことなく大学間交流が可能となり、また関係国・大学間の学生交流の際の単位互換が可能である。このことから、本学での大学間国際交流に関しても UMAP の活用を検討すべきであろう。また同年 10 月 3 日に広島市で行われた、ハワイ州政府及びハワイ大学マノア校の主催による「グローバル・パートナーシップ・ネットワークイベントに参加した。さらに平成 30 年 1 月 26 日に文部科学省主催による「平成 29 年度留学生事業に関する業務等説明会」へ参加し、交流を広げた。

1. ドイツ国 NRW カトリック大学との教育交流

教育交流会として、NRW カトリック大学の副学長シーラ・バイリヒ先生および同大学教授タニヤ・ホフ先生を招聘し実施した。また同大学から 9 名の学生が参加した。本学からは田中宏二学長、佐々木秀美副学長、岡本陽子研究科長はじめ、阿賀キャンパス教員、看護学研究科学生、看護学部学生を含む 41 名が参加した (図 2)。そして、会場となった阿賀キャンパス 205 教室において、バイリヒ先生による演題「ドイツの高齢者の実像、特に認知症に関して」およびホフ先生による演題「親の精神科疾患が子供に及ぼすインパクトについて」の 2 講演と、佐々木先生による演題「養護教諭教育の概要について」の講演が行われた。本学の岩本由美准教授が日英逐次通訳を担当し、講演後には特にドイツの認知症への対応の実態や、ドイツでは見られない日本独自の養護教育のシステムについて活発な意見交換が行われた。



図 1. 教育交流会の様子



図 2. 教育交流会参加者

2. 中華民国台湾慈済科技大学への表敬訪問

本学からは佐々木副学長および中村センター長、オブザーバーとして岡田京子助教が参加した。慈済科技大学からは理事長および羅文瑞 学長、陳 紹明 副学長、朱 芳瑩教授（国際交流センター長）、石丸雅邦先生が対応され、歓談を通じて同大学の概況と特色について説明を受けた。また、同科技大の看護・医療技術等に関わる施設を見学した（図 3）。本学側からは教育の概況・特色を説明し、教育交流に関わる要人の訪問要請を行った。



図 3. 慈済科技大学の風景

3. パーペチュアル・ヘルプ大学（UPHS）との教育交流

2011年の交流協定により、同大学を中村センター長が表敬訪問した。Arcadio L. Tamayo 学長および国際研究交流部長、Estrella A. San Juan 看護学部長、医学部長、感染管理部長と面会し、交流に関わる意見交換を行った。同大学からは今後の協定の改定に向けた示唆を受けた。

また同時にラス・ピニャス地区キャンパス内のメディカルセンターおよび保健医療関連学部（医・薬・看護・医療技術・看護）の施設見学を行った。そして、看護学科4年生および医療技術学科4年生を対象とした講義「住血吸虫症対策に関わる経験：ラオスおよび日本での研究を通じて」を行った。